

## **日光：歴史を踏まえた日光市の紹介**

日光には、1200 年以上にわたって発展してきた自然と関わりが深い宗教史がある。高僧の勝道上人（735-817）が到着した、少なくとも 8 世紀後半以来、この地域の山は神聖な場所と見なされるようになった。勝道上人は、何世紀もかけて現在の日光の社寺へと発展した神仏習合寺院を設立した。

今日ある日光の社寺の建物は、17 世紀の前半に建てられた。日光の歴史のこの章の第一章の重要な出来事は、徳川家康（1543～1616）、徳川幕府の創始者であり、その最初の軍事指導者廟の建設であった。本殿と東照宮の他のほとんどの建物は、彼の死後数年で完成した。二荒山神社と輪王寺の大部分の建物は 1650 年以前に建てられた。大猷院は 1653 年に完成し、三代将軍徳川家光（1604-1651）の最後の安息場所である。

19 世紀半ばに日本は多数の西側諸国と外交および商業条約を締結してから数十年、多くの外国大使館が中禅寺湖のほとりに避暑地を建設した。外国の外交官は、その自然の美しさや夏の涼しさに惹かれたのである。多くの日本の皇族や日本政府関係者がここを訪れ、当時、日本の外務省が夏の間日光に移動したとも言われていた。